

114
A-1185

2



銀行原論第二卷

第一篇

銀行ノ事業及其結社ノ體裁

銀行ノ事業ハ左ノモノヲ以テ經營スルニ在リ

| | |
|------------------------|---------------------------------|
| イ | 貸金 |
| ロ | 通貨 |
| ハ | 株券 |
| 右ニ隨テ其事業ノ大体ヲ分テ三ト為ス | |
| 一 | 純粹ノ銀行事業 <small>「レ」</small> トノ事業 |
| 二 | 通貨賣買及ヒ為換ノ事業 |
| 三 | 株券賣買ノ事業 |
| 茲ニ銀行事業ハ如何ナル結社ノ體裁ヲ以テスル歟 | |

大正十一年四月
隈齋郵寄贈

又結社ノ体裁何レヲ以テ最モ是ニ適當ナル歟、疑問アリ

第二ノ疑問ニ應スルハ甚タ容易ナラス如何トナレハ左ニ開列セシ如ク結社ノ体裁各異ナリテ其利害得失有レハナリ

| | |
|---|------|
| 一 | 獨自興業 |
| 二 | 協同會社 |
| 三 | 委任會社 |
| 四 | 株券會社 |
| 五 | 協力組合 |

第一 獨自興業トハ一箇ノ私人ニ興起スルニシテ高估及ビ銀舗ノ事業ニ多シ
獨自興業ノ利益アル事ハ其財本ノ力ニ應シテ之ヲ

1

増殖スルト長期ノ負債ヲ拒絶スルト自己ノ見込ヲ以テ自在ニ事業ヲ企テ隨意ニ之ヲ金額ヲ使用スルト自己ノ十分ニ了得セシ企ニ着手スルト能ク商業上ノ時機ニ投スルト新事業ニ財本ヲ轉移スルト事業ヲ執行セシムル者家族ニ對シ監督周到シ及ビ無限ノ権カフルト自身ニ事業ヲ指揮シ或ハ之ヲ執行スル以内ハ其作業詳容ナルトニ在リ
獨自興業ノ弊害アル事ハ事業ヲ經營スルニ一人ノ思想限リアルト一人ノ能力及ビ其財本一旦不虞ノ災害ニ罹リ充復シ難キコト大事業ヲ指揮幹旋スルニ方リ人力過少ナルトニ在リ
近世各種ノ會社興起セシヨリ以來獨自興業漸々其舊時ノ勢カフ減退セリ

第二 協同會社ハ同時ニ數多ノ場所ニ於テ其事業

ヲ執行シ及ニ百般ノ供給ニ要スル興業ノ為ニハ
最ニ便益アリトス持ニ銀行事務ニ適當スルモノト

リ
其他談社ノ利益フル事ハ各人ノ財本ヲ合一ニスル
ト各人總テ其全產ヲ以テ危險ヲ保任スルト各種

ニ各所ノ事業ニ對シ株主ヲ以テ其擔當人トスルニ
充分ナルトニ在リ

談社ニ弊害フル事ハ社中不和ヲ生シテ一社其放
銀ノ高ヲ減省シ或ハ一社員ノ放銀増殖シテ一社ノ

財本其力ヲ増進セサルト蓄積セシ一社ノ財本ノ各自
競テ派分スルト各自恣ニ事業ヲ經營スルト損害ヲ

分任スルノ過度ナルト社員権理同等ニシテ各其意

4

見ヲ固執スルト各員互ニ欺罔シテ利得ヲ爭攫スル
ト容易ニ新事業ヲ企テ得難キトニ在リ

第三 委任會社及ニ株券發行委任會社ハ大ニ贊稱

ス可キモノニ非ス而シテ此會社ハ二種ノ社員ヨリ
成立ス其一ハ暗社員放銀ノ社員ニ列セシテ其分ノ

保任即チ公ノ社員ニテ其分ノ其二ハ保任社員產ヲ以テ損失ヲ保任ス

テ暗社員ハ大抵保任社員ノ犧牲タリ如何トナレバ
保任社員タルモノ有益ノ事ハ自己ノ業トナシ却

不利ノ事ハ會社ノ資金ヲ以テ之ヲ經營スレハナリ然
リト雖モ此會社ヲ製造事業ノ為メ設立セバ監督充

分一周到スルヲ以テ大ニ便益アリトス
佛國ニ於テハ談社甚々多ク殊ニ國乱第三那破倫大
後ハ其數益々増加セリ

談社、利益アル事ハ其財本ヲ暗社員ニ因テ増加ス
レト大專業ヲ興ス能カヲ運用シ得レト保任社員ノ
保任其制限ナキト在リ
談社ノ損害アル事モ亦重大ナリ即チ保任社員ニテ
暗社員ヲ欺瞞シテ其委託セシ財本ノ私用ヲ規畫ス
ルト暗社員ニ賦スルニ過重ノ費金ヲ以テスルト會
社ニ蓄積セシ財本ヲ保任社員及ヒ暗社員其私事
轉用スルト保任社員其推域ノ廣大ナルニ隨テ元
害ヲ分任スルモ亦無限ナルト在リ
第四 株券會社ハ物品賣買ノ專業ヲ營ムヨリ銀行
專業ヲ行フニ適當モテ獨自ニ興立セシ銀行ノ外又
巨大ノ金額ヲ要シ而シテ大專業ヲ興スヘキ會社ヲ
設立スルニ欠ク可カラサルモノナリ

株券會社ニ適當スル銀行專業ハ割引動産抵當貸付
及ヒ不動産抵當貸付ノ三種ナリ然ルモ此會社ニ於
テ物品賣買ノ專業ヲ經營セシモノハ往々瓦解ヲ免
レザリキ
株券會社ノ利益アル事ハ速ニ之ヲ興起シ及ヒ之ヲ
擴充スルト各自ニ損害ヲ分任スルト獨自營業シテ
其財本及ヒ能力一旦不虞ノ災害ニ罹リ再ヒ克復シ
得易カラザル等ノ如キ患無キト巨額ノ財本ヲ終始
保續シ得ルトクレジツトテ廣被永續スルト在リ
談社ノ損害アル事モ亦重大ナリ特ニ永久無期ノ債
ヲ為スニ傾向シ易キト蓄積セシ財本ノ使用動モス
レハ其目的ニ反スルト社長及ヒ委員ニ於テハ株主
ノ資産ヲ使用スルノ権力無限ニシテ更ニ其責任ヲ

有セザルト高業上ノ時機ニ投シ及ヒ旧業ヨリ新業
ニ轉移レ難キト會社設立ノ際危害發起スルトモ
ト社長及ヒ委員其私營ノ事業ヲ會社ノ事業ト混同ス
ルト事務施行ノ監督周到セザレトニ在リ

第五 協力組合ノ論ヲ以テ此章ヲ結了セント欲ス
夫レ此組合ノ利益アル事ハ元金ノ力ヲ組織シ之ヲ無
窮ニ維持スルト不規則ニテ無期ニ配賦金ヲ為サレ
ト一旦興起セシ事業ヲ動かサレト唯其分
テ事業ヲ擴延シ及ヒ之ヲ改正スルニ容易ナルト社
員各自ニ其事業ヲ監督シ及ヒ之ヲ操作スルヲ為メ
大ニ利益アルト監督ノ徒費ヲ省テ元金ヲ空シテ
抛擲セザレト組合ノ者ヲシテ中等種族ノ地位ニ引
セシムルニ在リ

6

該組合ノ弊害アル事ハ即チ起先其元金ヲ蒐集スル
ニ甚ク困難ナルト事業ヲ經營スルニ必需ナル性質
ヲ欠クスルト管理者ヲ闕クト内部ニ黨与ヲ起スト
事業ノ目的ヲ轉向シ難キ為メ自然營業ノ區域ヲ盛
大ナラシムルヲ能ハザレトニ在リ
右結社ノ体裁其性質ニ隨テ各適當スル事業
雖モ利益アルハ隨テ損害モ亦其間ニ生スレテ免レ
難シ要スルニ彼是孰レヲ以テ最モ便益アリト
歟容易ニ軒輊シ難キモノナリ
以上結社ノ体裁中ニ就テ最モ切要トスルハ株券會
社ヲ以テ第一トス

一 運輸會社

株券會社ノ目的通常其種類ヲ左ニ分テリ

二 銀行

三 保險社

四 工業會社

右ノ各會社ニテ最モ多ク元金ノ使用セシハ運輸會社ニシテ千八百六十七年中澳國ニ於テ株券ヲ以テ募集セシ元金三分ノ二ハ運輸便路ノ費途ニ供セリ即チ千八百六十七年中拂ヒ濟ミノ株券元金總高七億七千萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用シテ如

鐵道汽船會社 五億八千八百三十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

銀行 一億九千二百三十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

保險會社 千五百二十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

工業會社 四千五百五十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

此他ノ會社 百七十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

然ルニ千八百六十八年ニ至リ各會社盛ニ興立シテ泉貨市場ニ驚クヘキ變革ヲ生シ千八百七十年ニハ右ノ割合大ニ變セリ即チ其景況ヲ左ニ揭示ス

銀行 四十五 株券元金 二億七千八百二十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

運輸會社 四十五 株券元金 八億二千八百九十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

工業會社 五十四 株券元金 九千七百九十萬「ゲルデン」九億九千萬「ゲルデン」ニシテ各社使用

歐洲各國相度會社ニテ癸スル相度報告書及ヒ新聞紙ヲ閱スルニ運輸會社及ニ銀行ノ株券ハ他ノ會社ニ比スルニ其數最モ多シ是ニ由テ以上論述セシ株券會社創立方ノ根理ノ虛ナラサルヲ知レヘシ而シテ余輩ノ目的トシ論スル所ハ銀行事業ニ在ルヲ以テ後章ハ序ラ銀行事業ヲ施行スル株券會社ノ

第二篇

銀行性質及ニ銀行事業ノ論

銀行ハ貨幣ノ流通ヲ助ケ交易ノ便ヲ起ス為メ設立セシモノニシテ即チ貨幣及ニクレジットト授受ノ紹介ヲ為スヲ第一ノ本務トセリ其狀宛ニ大ナル阪池ノ渚水ヲ其溝渠ニ由テ四方ニ流通シ普ノ土地ヲ澤潤スル如ク銀行モ亦一般貯蓄ノ泉源ヲ茲ニシテ之ヲ四方ニ融通シ特ニ困難時ノ救済所ニシテ交易及ニ經濟的事業ノ中心タリ以下論中單ニ銀行ト稱スルハ金券發行ノ權利ヲ有セル銀行ヲ指シタルモノニシテ他ノ銀行ハ必ス其營業所ノ本業ニ付テ之ヲ稱ス即チ割引、受託、動産抵當貸付、動産保信

稱スル如キ是レナリ

銀行ヨリ与ナルクレジットハ金券ヲ以テシテ其費金多クサレサル為メ各府政府早ク此理ヲ了知シテ右等ノ銀行ニ金券發行獨占ノ權ヲ許スニ政府ヨリ其報酬ノ望ミタリキ故ニ或ル銀行ニ於テ得クル其許可價位頗ル高貴ナルモノニ當レリ

因テ茲ニ銀行ノ種類ヲ分ツ左ノ如シ

イ 特准及ニ准允銀行

ロ 自由銀行

イハ其成立政府ノ好遇ニ出テ大抵金券發行ノ特權ヲ獨占セリ澳國ノ國立銀行ハ此特權ヲ有シ威迫ヲ以テ其金券ヲ通用セシメタリ斯ル銀行多クハ國立ニシテ政府ノ取引ヲナスモノナリ然リテ雖モ衆人

知、如ク政府ハ、極ノテ正實ナル負債者ニテ、
又政府ハ、速ニ負債ヲ償還スルヲ以テ己ノ利トセス
且ツ一私人ニ對シテ其負債ヲ償ハシムル如ク督促
逼迫シテ之ヲ取立ツレト能ハサルノ一大重謫事ア
リ是故ニ斯ル銀行ニ於テクレジットヲ与フル事業
盛大ニ執行スルルハ忽チ破産ヲナスニ至ル即チ澳
國ニ立銀行ノ經營及ビ當時ノ景況ヲ觀察セハ右ノ
如キ状況ノ發起スレト容易ニシテ之ヲ恢復スルニ
甚ク困難ナルヲ知ルニ足レリ
斯ル銀行ニ於テ屢々現金拂ヒニ恢復セント試ムル
政府毎ニ之ヲ障碍シタリ故ニ近年ニ至リ特權ヲ
有シ銀行政府トシテ取引ニハ政府ニ貸金ヲ為サバ
ルヲ以テ第一ノ事トナリタレハナリ

4

銀行ハ之ヲ特權ニセンカ將テ之ヲ自由ニセンカ
一ニ論題近年ニ至リテ大ニ世人ノ喋々スル所トナ
リタリ然レモ之カ答辨ヲナスニ甚ク難カラ澤テ
一般ニ特權ヲ廢セントスルノ今日ニ在リ經濟上種
々ノ妨礙ヲ生スル特權ノ廢スヘキハ固ヨリ論ヲ俟
タス然ルニ金券發行ノ特權ニ至ラハ如何ナル特殊
ノ目的ヲ以テ之ヲ許可スルカ元來競勵ヲ自由ニ三
スルハ經濟學ノ基礎ニシテ經濟學各科ニ於テ大ニ
貴重ニスル所ノ根理ナレハナリ何ニ故ニクレジット
トヲ与フルノ事業ノミニ之ヲ非トスレカ又何故ニ
一銀行ニ限リ此事業ヲ特許スルヤ此銀行金券ハ信
スヘクシテ彼ノ銀行金券ハ信スヘカラサルカノ
ニ至ラテハ衆意ノ判別ニ在リ政府ハ唯期限ヲ定メ

テ銀行ノ財産報告書衆人ノ意見ヲ付シ能ハル爲
ニ供スヲ出ストノ監督シ其報告書ヲ公布セシムル
ヲ以テ第一ノ務トスヘキノミコトユグチレホレシ
兩氏ハ大ニ自由銀行ノ論ヲ主張セリ因テ今茲ニ其
論旨ヲ明亮ニシテ且ツ遠実ナルコトユグチル氏ノ語
ヲ擧ゲ示サシ曰ク世人ハ多ク銀行ヲ自由ニスルハ
擾亂ノ基本トシ而シテ金券發行ノ衆人ニ許可セ
如何ナル結果ニ至ルカノ疑問ヲ起セリ然レモ
爲替券ノ發行ヲ衆人ニ許セハ如何ナル結果ニ至ル
カノ問フト同一ノ理ナリ此爲替券ハ世人ノ知ル如
ク何人ニテモ發行スルコトヲ得ルモノニシテ其爲替
券ノ領受スルモノアレハ之ヲ發シテ可ナラスヤ金
券ノ發行モ亦之ト異ナルコトナレド

10

此語實ニ理ニ遠セリト謂フヘキ如何トナレハ衆人
ハ之ヲ親愛スルハ自然ノ理ナレド固ヨリ論ヲ俟クサ
レハナリ
ホレシ氏云ク特權銀行論ノ行ナハレ、國ハ若シ銀
行ニ於テ金券ノ交換ヲ停止スルハ其損害一般
ノ通用金券悉皆ニ被及シ自由銀行論ノ行ナハレ、
國ハ然ラズ縱レ一銀行ニテ金券交換ヲ停止スルモ
其損害唯通用金券總額ノ一部分ニ被及スルニ過サ
レ、而シテ銀行ヲ自由ニスルハ銀行自己ノ利益
ヲ計ルカ爲メ右様ノコトアルモ速ニ其業ヲ恢復セ
ト尽力セリ之ヲ特權ニスルハ決シテ然ラス其實
事ヲ人テ証明セシ自由銀行論ノ盛行シテ其多数

ノ許可スレ地ニ於テハ金券交換ヲ停止スルモ僅ニ
 數日間ノミ縱セ之ヲ遷延スルトモ何週間ニ過キス
 然ルニ特推銀行ノ行ナハルニ地ニ於テハ其期限數
 年ニ互ッ甚シキハ數代ヲ經ルニ至ルナリ
 之ヲ概論セハ貨幣ノ信標即チ金券ヲ發行スルハ道
 理上ヨリ論スルモ法律上ヨリ論スルモ一般ノ法
 歸スレテ行業自由法ノ外ニ置クヘキ理ナレカ之
 實際ニ於テ銀行ヲ自由ニ其多數ヲ許スバ之ヲ
 特推及ヒ准允ニ比スルニ其利甚タ多クシテ之ニ隨
 フノ害甚タ少シトス
 銀行ニ大別シテ三トス即チ左ノ如シ
 借受ノ事務之ヲ分テハ
 一 金券發行銀行

11

| | |
|----|-----------------------|
| ロ | 受託銀行 |
| ハ | 典當債券發行銀行 |
| ニ | 貸付ノ事務之ヲ分テハ |
| イ | 割引銀行 |
| ロ | 動産抵當貸付銀行 |
| 三 | 動産保信義會ノ事務 |
| 右 | 通常大別スル所ノモノニシテ又之ヲ左ノ如ク |
| 分 | ツテアリ |
| イ | 金券發行銀行 |
| ロ | 不發金券銀行 |
| 輓 | 近興起セシ動産保信義會ハ前ニ開列セシ銀行ノ |
| 事業 | ヲ銀行同様ニ執行スル雖モ其本務トスル所ハ |
| 會社 | ヲ起スノ事業ニアリ |

銀行、左

固有セリ

一 遊金ヲ湊集スル能力

二 通貨ノ分布スル性質

銀行ノ事業ヲ分ツ左ノ如シ

一 金券賣買ノ事

二 寄託金預リノ事

三 割引ノ事

四 動産抵當貸付ノ事

五 銀行ノ是レ取引高買便行ノ手為假ノ高業上

六 爲行ノ實際現金用テ其類ノ取引帳簿上

七 通貨賣買ノ事

八 両替ノ事

12

八 直致ノ領受スル銀行ノ受領金額ヲ以テ之ノ長行然

九 行ノ交付スル証券書ニシテ即チ該金額ヲ銀行

十 証券賣買ノ事 取組引ノ相庭會社ノ

十一 動産保信金社發起及ニ政府郡黨等ノ負債

十二 不動産抵當貸付ノ事

銀行ノ通貨ヲ湊集ハル事業ヲ分ツ左ノ如シ

一 各種債券賣却ノ事

二 銀行金券發行ノ事

六歳

六歳

- 一 所有スル為替ノクレジットトテ使用スル事
- 二 寄託金預リノ事即チ金庫証券取引勘定及
- 三 銀行ノ通貨ヲ分布スル事業ヲ分ツ左ノ如シ
- 四 為替ノ買収
- 五 動産抵當貸付即チ掌握抵當物ニシテ多ク
- 六 証券貨幣貴金屬ヲ用フ
- 七 不動産抵當貸付
- 八 各種債券ノ買収
- 九 取引勘定ニ関スル貸付

第一章

金券賣買ノ事

銀行金券即チ銀行自カラ自己ニ對シテ發行スル拂込

票ニシテ其素質自ラ紙幣ト異ナレ

紙幣ハ一般ニ價格威迫ニ成リ衆人必ス之ヲ昂低ス

ルヲ得ヌ又之ヲ領収セサル可カラズ而シテ現金

ト其交換ヲ要スサレモナリ金券之ニ反シ法律

上ニ於テ一定セル通貨同位同位如ク端數十圓五

ノ金高ニテ發行シ何時ニテモ他人ノ要求ニヨ

リ之ヲ現金ニ交換セサルヘカラスシテ必ス現金

交換スヘキモノナリ而シテ衆人ノ現金ヨリ金券ヲ

欲スル所以ハ遠送ニ輕便ニシテ且ツ保存ニ容易ナ

レハナリ然リト雖モ金券ノ價格該金券交換所ニ在

外ハ為替券ノ相庭ニ比シテ大ニ低下セリ其故ハ

銀行ニテ多ク水火災ニ罹リ以テ失セシ分ヲ償ハ

ルヲ以テ若シ之ヲ以テ失セハ其損失總額ニ影響スル

大 義

ノ恐レアルヨリ起セリ
 ワクキル氏曰ク銀行金券、貨幣流通上他ノ金銭ニ
 代ルヒト銀行營業上ノ授受ニ於テ、現金ヲ用ヒ
 スレテ計算ヲ成スノ仕法ト其便ノ同フセリ之ハ各
 國及ビ各時代ニ於テ異同アリト雖、先ッ茲ニ稱ス
 ル所ノモノハ、兌換ノ命令、爲換券、拂傳票及ビ結算
 會館ノ如キモノナリ近年ニ至リ日耳曼ニ於テ拂期
 限ニ達セシ利息切手及ビ配賦金切手ノ各種類ノ貨幣
 同様に一般ノ流通物ニ使用ス然レバ此時ハ通貨ノ現
 金ハ、渾テ物價ノ尺度タルノニシテ、交易上授受或
 ハ拂渡シテ、際多クハ之ヲ其媒介ニ用ヒス取引者交互
 に出撰ヲ以テ前述ノ如ク流通物ヲ用ヒシナリ
 金券發行銀行、方今ノ受託銀行ト齊シ、旧時ノ又

14

托銀行ヨリ生起セシモノナリ、方今受託事務ノ和
 的、且ツ之ヲ便宜ニセシ爲メ、受託銀行ニ金券發行
 ノ推理ヲ与ヘタリ故ニ銀行金券ハ即チ受託銀行ヨ
 リ發スル金庫金券及ビ拂傳票ト現ク類似セリ、金
 券多クハ利子附ニシテ受託銀行ヨリ寄託金ノ代
 リ、其寄託者与テ手形ナリ而シテ受託銀行ノ代
 リ、之ヲ現金ノ交換ニ其發行日ヨリ交換日マテ、利
 子ヲ計シ、金高外ニ其發行日ヨリ交換日マテ、利
 子ヲ計ス
 前述ノ如ク銀行金券ハ紙幣ト其素質ヲ異ニスレバ
 他ノ金銭ニ代ルモノト同シキヲ以テ政府ハ能ク此
 義ヲ辨知シ經濟上ノ道理ニ從ヒ、金券發行銀行及ビ
 金券發行ノトニ付テ故ラニ關涉セス
 政府ノ關涉スヘキハ左ノ件項ニ限レリ
 一 金券ニ威迫ノ通用ヲ許可スヘカラス是ハ

銀行ニ於テ交換ヲナシ難キハ在リ又政府ハ金庫ノ納拂ニ金券ヲ領受スヘキ義務ヲ負荷スヘカラス一私人同様其拒受ヲ自由ニ任ス

二 最下ナル金券ノ貸位ヲ小額ナラシムヘカラス是政府甚ク銀行ノ事務ニ親豫スルニ似タリト雖モ道理上ヨリ考フルハ然ラズシテ極メテ理アリ其故ハ人民中獨立ヲ保シ難キ種族ノ便益トナリ且又現貨ノ通用ヲ幾分カ保続スル為トナレハナリ

三 金券交換ノ規則即チ場所時限及ヒ貨幣ノ種類

四 成ルルノ金券發行銀行ノ事業 公報ス

15

キ主義ヲ守ラシムヘシ是ハ銀行ノ成立ノ事務及ヒ時々ノ景況ヲ明示シ衆人是由テ以テ金券ノ信スヘキヤ否ヲ能ク認識セシムル為ノナリ

右四項ノ定規ヲ履行セハ金券ノ通用ハ自由ニ在リト謂テ可ナリ
政府ハ金券發行銀行ニ對シ何程関涉スヘキカノ疑問ハ實ニ至難ノ論題ナリ然レモ前述ノ件項中ニ就テ公報スヘキノ規則ヲ精密ニスルヲ以テ一般ノ銀行法及ヒ一般ノ金券發行銀行法ノ基礎トナサハ可ナリ
自由銀行ノ行ナハルニ地ニ於テハ政府ノ関涉スヘキヲ特ニ其成立及ヒ事務ニ外形上ノ監察ヲ施スノ

ミニシテ十分其職ヲ尽スリト云フヘレ然レ氏之ハ
ワケチル氏ノ至言ノ如ク人民幾分カ独立シテ判正
ノカフ有セル地ニ限レリトス
尤モ通常ハ實質上ノ銀行法即チ前述ニ反對セル法
ラ一般ニ用ヒラル、ナリ實質上ノ銀行法トハ普通
或ハ特種ノ銀行ノ創起成立及ヒ事務ノ區域施行上
ニ關スル政府ノ法ニシテ斯ノ如キ法アルカハ銀行
金券發行自由ノ推ハ阻遏セラレハト一般ノ如何
トナレハ此自由ノ推ヲ有ツニハ外形上ノ銀行法ナ
ラサル可ラサレハナリ
政府銀行ニ其事務ノ公報ヲ恪守セシムルヲ以テ
其注意十分スト云フヘシ金券發行銀行トテ他ノ銀
行ト異ナレ処置ヲ用ヒスシテ可ナリ故政府ハ以

16

ラニ銀行監察官ヲ置テ之ヲ監督セシムル人ニ之
因リ自ラ審密ニ意ヲ用ヒテ銀行ノ状ヲ監察シ得ル
ニ至レヘシ
更ニ亦一大疑問アリ金券ノ發行ハ中央集權ノ法ニ
從ヒ歐洲各國ニ於ケル如ク之ヲ一大中心銀行ニ限
テ以テ是トスルカ或ハ蘇格蘭瑞西及ヒ北北ニ於
ケル如ク之ヲ各支分推ニスルヲ以テ是トスルカナ
リ
此論題ニ向テ其論辨ヲ為サレヘカラス茲ニ日耳曼
澳地利ノ或ル中心銀行即チ國
銀行ノ利害ヲ舉ケ之ヲ明
示セントス
千八百六十九年八月中維也納府ニテ諸証券其時價
非常ニ低下セシハ固ヨリ一般會社設立ノ方法善良

ナラサルニ帰スルト雖モ當時衆人皆驚然トシテ國
立銀行ノ容易ニ動産抵當ノ貸付ノ事業ヲ為シ其困
難ニ陥リシカ為メ暴日貸付セシ金額抵當ノ諸証券
漫ニ其受ケ戻シテ借主ニ促セシニ因リ諸証券ノ時
價自ラ非常ニ低落セシト此言敢テ不當ト云ヘカ
ラス如何トナレハ此時國立銀行ハ實ニ動産抵當ニ
過分ノ貸金ヲ為シタリシニ其際諸証券ノ時價非常
低下セシヲ以テ國立銀行ハ已ハテ得ス之ニ向
ノ用意ヲナセシナリ而レテ其用意ハ先ツ新貸附
拒辞シ旧貸附ヲ取戻スヲ以テ第一ノ緊務トセリ他
ノ銀行モ國立銀行ナレ一ノ貨源將ニ涸レントスル
ヲ見テ又同一ノ所為ヲナシ遂ニ諸証券時價恢復ノ
勢ヲ失ヒタレハナリ

此際ノ損失其數幾百万ゲルデシナリ知ル能ハス
若シノ富豪比々其産ヲ傾ケントスルニ先クテ國立
銀行所有ノ諸証券ヲ悉ク賣却シテカク及フ限ル其
産ヲ救護セントナシタリ故ニ國立銀行ニ於テハ極
テ動産抵當及ヒ割引ノ事業ヲ嚴格ニシテ所有金
向テ方ヲ務メテ節減シタリ
國立銀行ニ於テ總テ為替券ヲ買収スルニハ必ス其
起原ヲ探究シ真ニ商業為替ナルモノニアラサレハ
之ヲ買収セザリシ商業為替トハ其源商業上ヨリ起
リシモノナリ平産製者或ハ高估ノ物品ヲ賣却スルニ
シテ何日或ハ何月ノ後ニ主ニ拂フヘキ為替券ヲ與ヘ而
シテ賣主直ニ價金ヲ要スルハ之ハ産製者或ハ高估
營業上必需ノ為メ銀行ニ得ルニ出ル也ハ銀行ニ
此為替券ヲ賣却シ銀行ニ持テ其割引ヲナスカ為
ルニ商業上ノ務トナシ替ニアラステシテ特ニ商業為
替額ヲ借受セ

ヲ看為出ニ得ルセシモ其ノ難事ナリ由リ之ヲ勘別シテ其實
國立銀行ハ維也納第一等ノ銀行ニ設ケシ再割引ノ
方法談銀行ニ於テ買収セシ為替ヲ一タヒ割引シ而
シテ之ヲ國立銀行ニ送リ更ニ割引ヲナサシムルヲ
再割引ト云フヲ承諾セシテ之ヲ拒辭セシ為ノ衆
人大ニ恟々タリ又他ノ銀行ハ國立銀行ニ向テ屢々
為替ヲ出スト雖モ全ク其需求ヲ承諾セス或ハ之ヲ
承諾スルモ甚タ僅少ナルヲ以テ更ニ一層ノ苛厄ニ
遭遇シタリ然レモ國立銀行ハ中央銀行ニシテ其責
任義務最モ重大ナルカ為ノ平常ノ事業ヲ能ク執行
シテ縦ヒ擾亂ニ際スルモ其危難ヲ禦クノ豫備ヲナ
サシムルハカラサルヲ省ルルハ當時國立銀行ノ處
置實ニ其意ノ那辺ニ在ルカヲ看出レ得ルナリ又

18

國立銀行ノ外ハ金券發行ヲ許可セテレハカ為ノ
維也納府ノ銀行總テ國立銀行ニ依頼スルヲ以テ多
クノ銀行殆ト大困難ニ陥ラントシタリ
右ノ一話ハ唯一銀行ニミ特別ノ推理ヲ与フル不
利ノ証據ヲ指示スルモ、ニシテ一般困難ノ際衆
銀行ヨリ中心銀行へ其救助ヲ望ムニ方リ之ヲ救助
スレバ金券發行自由銀行ノ自ラ盡カシテ之ヲ救助
シ難ク及ハス
然レモ中心銀行ハ一般ノレジット敗壞ノ際ニ會ス
ルモ大勢力ノ家産ヲ有ルヲ以テ救助ノ法モ亦必
ス其術アルヘシ是レ敗壞ノ際中心銀行ノ他銀行ニ
比シテ其カアル所以ナリ斯ノ如キ時ニ至テハ小ナ
レ金券發行銀行ノ如ク自己救護ノ為ニ其事業ヲ

減縮スルナク反テ之ヲ擴張スルヲ得今茲ニ普魯
西銀行ノ例ヲ舉示センニ千八百六十六年ニ日耳曼
國中ノ金券發行銀行及テ受託銀行ニクレジツトノ
大敗壞ヲ癸セシキ普魯西銀行ハ金券發行ヲ増如シ
衆人ニクレジツトノ与ヘ方ヲ減縮セシテ其事業
ヲ擴張セリ
普魯西銀行ニ於テ現金ノ抵當ナク癸セシ金券高ノ
多キト又各金券發行銀行ノ事業ヲ減縮セシ千八百
六十六年ヨリ甚シキモノ未タ嘗テ有ラサルナ
中心銀行ノ利益アルハ英國一般クレジツト大敗壞
ノ際ニ處セシ其狀ヲ觀テ判明セリ千八百五十九年
中國銀行右ノ困難ニ處シ大ニ其警備ヲナシテ苛
シノ當時ノ敗壞ヲ防止セシナリキ此敗壞ノ源ハ亞

14

米利加ニ起リ英國ニ流傳シ日耳曼ノハブルク_{名地}
ニ波及セシナリ而シテ此際衆銀行ノ破壞セシハ全
事務施行上ニ於テ銀行第一ノ主義ヲ確守セサルヨ
リ起ルモノニシテ銀行ノ取ルヘキモノ_{所有物}モ容
易ニ之ヲ領受スルヲ得ヌ當時幾百万磅_モヲ
シ_グノ所有物ヲ有セル銀行モ自然其拂_ヒヲ停止
ルニ至レリ是レ其元金ヲ惡シキ物_{連ニ賣買ナラサ}
ニ為シ且ツ亞米利加ヨリノ入金來ラステ内國ノ
高工ニ業者英國銀行ニ救助ヲ請フ_{一實ニ非常ナリ}
シヲ以テ之カ為メ衆銀行ノ危難ヲ救濟シ能フカヲ
有セシ英國銀行モ遂ニ之ヲ救濟シ能ハスト雖_レク
レジツトノ敗壞ヲ挽回セシ功ハ甚タ大ナリト云フ
ヘシ

英國銀行金券ノ元金漸々減少スルニ隨ヒ人民ノ危
 難益々増加シタリ千八百五十九年十一月十日ニハ
 元金ノ高二百四拾二万磅「ステルリング」九百九拾
 四万「ナリシ」カ十一日ニハ百四十六万磅「ステル
 九百六十」ニ減シ十二日ニ至リテハ五十八万磅「ス
 テル」ニ減シ十三日ニ減セリ然ルニ之ニ反シテ
 受托金ノ総額ハ千八百二十五万磅「ステル」ニ
 我ニ八億二千五百「ナリ」其中十三万磅「ステル」
 人ノ寄托ナリシ是ニ至リ初テ「ボ」氏ノ銀行法
 當分停止セシ為メ民心稍々安静ニ赴ケリ「ボ」氏
 ノ銀行法ハ後ニ詳カナリ「同月廿一日ニハ」該銀行ヨ
 リ「貸付」ニ貸付セシ高二千六百六十万磅「ステル」
 三シテ即チ公私寄托金ノ額ニ超過シ而シテ此半高

20

為替世話人官者命ニ貸付セリ
 千八百五十九年中諸證券ノ相庭非常ニ低落セシ狀
 ヲ觀レハ中心銀行ノ利アル「甚」明瞭ナリ此亞米
 利加數多ノ銀行ニ於ケルモ「バン」ブルグ名地ノ現貨ヲ
 以テ抵當トスル所ト雖モ此場合ニ際シ人民ノ危懼
 ヲ鎮靜シ能ハサルニ至リ英國中銀行事務ノ中心ト
 ル英國銀行ニ於テ漸ク之ヲ鎮靜シタリ尤モ「クレ」ジ
 ヲトノ周布セサル所ニ於テハ「ボ」氏ノ銀行法ヲ
 停止シテ此危難ヲ救助セリト云フ「斯ル」時ニ至リ初
 メテ中心銀行ノ方法他ノ銀行方法ニ比シテ其便益
 アル「疑」ナシ反テ受托銀行ハ此ノ騷擾ヲ増加セリ
 ト當時傳稱セリ
 今又一疑問ヲ起サントス即チ金券發行高ノ多寡ハ

物品ノ價直ニ如何ナル影響ヲ生スルヤノ論題ナリ
此論數種ニ分裂シ或ハ金券發行高ヲ増加セハ物品
ノ供給多クナルニ隨ヒ其價直ノ低下スルト均シク
現貨ノ價直低落シ而シテ其交換スヘキ物品ノ價直
自ラ騰貴スト

是ヲ以テ金券ノ發行多キ國ハ物品ノ價直貴キカ爲ノ外國產物
ノ輸入甚タ多ク内國產物ノ要求大ニ減少ス而シテ其輸入品ヲ
買収スルニ正金ヲ用フルカ故ニ正金ノ輸出甚タ多シ此ニ由テ
之ヲ按スルニ金券ノ發行高減少セハ物品ノ價直自ラ低落シ正
金ノ輸出モ亦隨テ歇止スヘシ正金輸出ノ源ハ必ス物品ノ高價
ヨリ起ルモノナリト此レ英國ケルレンシー、ポリンシ、ブル
論說ニシテ其源リカルド氏ノ貨幣說及ヒ銀行論ヨリ生シ
ロール氏銀行法ニ於テ實施セシ所ノモノナリ
ロール氏銀行法ノ基礎ハ發行金券高ハ抵當ノ現金高ニ應セサ
ルヘカラス而シテ此金ハ必ス正金ニ限レリトス故ニ現金ノ高
増減スルニ隨テ金券ノ發行高ヲ増減セサル可ラス、パンキン、プ
リンシ、ブル、論ハ前說ニ背反セリ而シテ此論說ヲ主張スル首長
ハ、ケルソン、ブリ、ト、ン、三氏ナリ三氏ノ論ハ金券ノ發行高ハ

一 般取引上ノ需要高ニ応シテ定ルモノニシテ銀行ニ於テ交換ノ義務ヲ固守スル以内ハ決シテ需要ナキ金券ヲ發スルヲ得ル唯一般ノ流用ニ充ルニ足ルアラハ十分ナリトス若シ之ヲ過キ餘剩アル中ハ必ス自ラ銀行ニ返戻シ来レリ而シテ其返戻シ来ルノ状或ハ負債償還ノ金トナリ或ハ現金交換トナリ毫モ銀行ノ妨碍ヲ為サスシテ返戻シ来レリ故ニ「ソウタ」氏ノ説ニ過分ノ金券ヲ發行スルモ其餘剩ナル部分ハ必ス一般ノ通用ヲナスニ至ラサレハ之カ為メニ決シテ物價ノ騰貴ナル理由アラス物價ノ騰貴ハ金券増加ノ為メナラスシテ却テ是レ物價騰貴ノ為メニ金券ヲ増加スルナリ而シテ金券發行及ビ金券發行銀行ノ物價低昂ニ影響ヲ與ル所以ヲ探究スルニ是レ全ク當時ニ起レル「クレジット」及ビ交易ノ衰頹ヨリス而シテ其衰頹ノ源由ハ「英」典及ビ「澳國」ノ近況ニ於テモ多クハ「クレジット」ヲ過度ニ擴張シ而シ

テ急速ニ減縮スルヨリ起レリ蓋シ銀行ノ斯ノ如キ所為ヲ行フ所以ニ着ハ物價昂低ノ機或ハ世上ノ動靜不規則ナル間ニ投シ相場ノ差ニ藉テ銀行及ビ株主ノ為メニ多分ノ贏利ヲ射獲セシト欲シテナリ

是ニ於テ金券賣買ノ「」ニ付キ左ノ二件ヲ思考セサル可ラ

イ 金券ノ發行高

ロ 金券ノ抵當

イ 金券發行高ニ制限ヲ定ムルハ概シテ法律上ニ於テモ亦經濟上ニ於テモ蛇足ニ屬セリ故ニ自由銀行ノ行ハル、國ニ於テハ此件ニ付キ法律上ノ制限ナキヲ宜シトス

金券ノ發行高ヲ無限ニナシ得ルト思考スヘカラス然レ氏又之ヲ節センカ為メ法律上ノ制限ヲ立ルヲ切要ナリト思考スルモ終ニ痼患ニ屬ス可トナレハ自然ノ制限ヲ超過セシ金券ハ直ニ

種ノ道ニ由リ銀行ニ返戻シ来レハナリ然レ氏通用ヲ自由ニ任セズ威迫ヲ以テ價格ヲ保持セシムル金券及び政府紙幣ノ如キハ全ク之ニ異ナレリ

金券発行高ニ付テハ法制ヲ摘撮セハ大約左ノ如シ

一 金券ノ発行高ハ制定ノ数ヲ超過ス可ラス

右ノ制限ハ更ニ一ノ定規ヲ以テ之ヲ嚴ニス即チ金券ノ全額或ハ幾分ハ法律上一定ノ抵當ヲ備ヘサル可ラス或ハ定數ノ銀行株金ニ比準セサル可ラサルモノトス此法ハ或ル日耳曼銀行其他大陸ノ銀行英國各州ノ銀行新約克ノ銀行及ヒ當今ノ米國金券發行銀行ノ準則ナリ而シテ政府紙幣モ亦幾分カ此ニ準スルアリ

二 金券発行高ノ内現金抵當ヲ備ヘサル分ハ嚴ナル制限ヲ立テ而シテ其餘ハ總テ十分ノ現金抵當ヲ備ヘサル

28

可ラフ

右ハ清國ノ氏ノ法ニシテ英國銀行ノ遵行スル所ナリ

三 金券ノ発行高ニ制限ナシ即チ金券發行ノ權ニ制限ナキナリ然レ氏金券ノ抵當法律上ニ一定セルヲ以テ陽

ニ其制限ナキモ間接ニ十分ナル制限アリト謂フニシ

右ノ法律上一定ノ抵當ハ金券発行高ノ幾割ハ必ス現金ヲ以テ備ヘ其餘ハ銀行ノ所有物中ニ於テ一定セルモノヲ以テ備フ可キナリ是レ歐洲大陸及ヒ日耳曼ノ金券抵當法ナリ

今茲ニ種々ノ銀行法ヲ撮撮シテ論陳スヘシ第一ノ法即チ一般ノ金券発行高ニ制限ヲ立ル法ニ付テ考按スルニ斯ル數額ヲ相當ニ定ムルニ其大概ト雖モ甚タ困難ニシテ如何ナル算法ヲ同ズルモ到底能クシ難ク其制限ハ何レモ有名無實ニ歸スヘシ如何トナレハ當今ノクレジツト事務ノ法方ニテ種々ノ山金代用物

大義

即チ預ケ金引出切手及ヒ結算會館ノ如キモノ世上ニ行ハルハ
ヲ以テ如何スルモ其高ニ制限ヲ立ルヲ得ス譯者曰是等ノ山金
國內元金ノ總高ヲ精
算ニ紙ハサルナリ況ヤ他ノ山金代用物ニ制限ナク持ニ金券
ノミヲ一種別物トシ制限ヲ立ルハ大ニ理ニ適セス金券トテモ
同ク是レ正金ノ代用物ナリ但之ヲ他ニ比セハ其代用ヲナ最
モ便且ツ易ナル差アルノミ故ニ米英(英ノ各州銀行ニ於テハ平
カノ現金抵當ヲ備フルモ金券ノ高ニ制限アリテ之ヲ超過スル
ヲ得ス)ノ如ク嚴ニ此制限ヲ立ルハ宇宙間稀有ト稱テ可ナリ日
耳曼ノ金券發行銀行ノ内巴華厘國不動産書入及ヒ島嶼銀
行ニ此制限アリ千八百六十六年ニ金券發行高ヲ千二百萬「クル
アン」九〇我四百
八十萬円ト定ム此他普國私立銀行「ハックエン」ノ銀行ヲ
イブナクノ金庫社ニモ亦此制限アリ普國私立銀行ハ總テ金券
發行高各ニ百萬「メー」九〇我七
十萬円ト定マレリ

24

金券ノ高ハ拂濟株金ノ高ニ應シ發行スヘキ許可ヲ得レハ「ノ
ラン」及ヒ「
ホンボル」ノ國立銀行「左ウリケル」及ヒ「ワ
ル」ノ銀行ナリ
又運用スル株金高ニ應シ發行スヘキ許可ヲ得シハ梅認疑ノ銀
行ナリ「
農普ハ元金ノ三分一ナリ」前ニ株券ヲ發シ拂濟トナリシ
株金又後來更ニ株券ヲ増發シ拂濟トナリシ株金ノ合計高ニ應
シ發行スヘキ許可ヲ得シハ「ロ
ストック」ノ銀行ナリ
又拂濟株金ヨリ多ク即チ發出セシ株券ノ總高ニ應シ發行スヘ
キ許可ヲ得シハ「キ
ツカ」ノ銀行ナリ拂濟株金及ヒ準備金高ニ應
シ發行スヘキ許可ヲ得シハ「グ
レー」メ及ヒ「ハ
ノ」クノ銀行
ナリ
又拂濟元金高ノ倍發行ノ許可ヲ得シハ「ル
ー」ベクノ私立銀行及
ヒ「タ
ル」ムスグトノ銀行ナリ

佛郎克渡ノ銀行ハ其設立ノ始ニ拂濟元金ノ倍マテ発行ノ許可ヲ得シカ千八百六十二年ニ至リ元金高即千九百九十九万クルデン
 四万ノ三倍発行ノ許可ヲ得タリ乃チ千八百六十八年十二月七日ニ金券ノ高ニ千九百九十七万五千九百四十クルデン
 十萬三千七百ナリ此時ヲ以テ其発行高最モ多シトス
 百六十圓ノ銀行ハ拂濟株券元金高四千萬ヲ超過セサル間ハ其二倍四千萬ヲ超過セハ其倍発行ノ許可ヲ得タリ
 日耳曼銀行金券発行ノ権理及ヒ金券発行高ヲ左ニ表示ス
 三十一所ノ金券発行銀行ニ於テ

| | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 千八百六十八年ニ銀行現 程ニ連ヒ總株券元金高 | 一億八千八百六十一万「ターレル」 九百一億三千二百二十万七千四百 |
| 内 突出株券高 | 一億四百七十万「ターレル」 九百一億七千三百九十九万 |
| 内 拂濟株券高 | 九千六百七十万「ターレル」 九百一億六千七百二十四万九千四百 |
| 千八百六十五年ノ中ニ 金券発行高 | 一億九千九百十五万「ターレル」 九百一億三千三百八十五万五千四百 |

| | |
|--------------------------|------------------------------------|
| 千八百六十八年 金券発行高 | 二億千六百十四万「ターレル」 九百一億五千八百二十九万四千 |
| 千八百六十五年ヨリ千八百六十八年ノ間ニ増加セシ高 | 二千四百九十九万「ターレル」 九百一億七千七百四十九万三千四百 |

右ノ内

| | | |
|--|----------------------------------|------------------------------------|
| 千八百六十八年 | 拂濟株券元金高 | 金券発行高 |
| 一 金券発行高ニ無限ノ権アリ銀行六所 | 三千二百三十万「ターレル」 九百一億二千二百六十一万四千 | 一億六千六百六十三万「ターレル」 九百一億六千六百六十三万四千 |
| 二 拂濟元金ヨリ多数ナル金券発行ノ権アリ銀行六所 | 二千二百五十二万「ターレル」 九百一億五千五百七十六万四千 | 二千八百八十万「ターレル」 九百一億六千六百六十三万四千 |
| 三 金券発行ノ高ニ拂濟元金ノ高ニ応スヘキ銀行七所 | 千六百八十七万「ターレル」 九百一億五千五百七十六万四千 | 千三百三十二万「ターレル」 九百一億九千九百三十二万四千 |
| 四 金券発行高ニ限定アル銀行四所 | 千四百三十八万「ターレル」 九百一億五千五百七十六万四千 | 九百八十九万「ターレル」 九百一億九千九百三十二万四千 |
| 五 金券発行高ニ限定アル普通私銀行九所 | 千九百九十九万「ターレル」 九百一億五千五百七十六万四千 | 八百三十万「ターレル」 九百一億九千九百三十二万四千 |
| 千八百七十年十二月三十一日ニ日耳曼金券発行銀行ノ拂濟株券元金總高一億四十八万九千「ターレル」 九百一億七千三百三十四万九千 | | |
| カ内二十八町ノ金券発行高二億七千八百六十七万二千「ターレル」 | | |

ル九リ我一億九千五百十リキ
 千八百七十年ノ末ニ歐洲各銀行ニ於テ發セシ金券ノ高ヲ左表ニ揭示ス

| 銀行ノ名称 | 株券發行高 | 金券發行高 |
|---------|---|--|
| 白耳義國立銀行 | 二千五百萬「フランク」 九リ我四百五十萬 | 二億二百五十二萬九千九百九十九「フランク」 九リ我三千六百四十九萬五千二百二十 |
| 佛蘭西國立銀行 | 一億八千二百五十萬「フランク」 九リ我三千二百八十萬 | 十七億三千四百二十萬「フランク」 九リ我三千四百二十二萬五千六百六十四 |
| 英吉利國立銀行 | 三億六千三百八十二萬九千九百九十九「フランク」 九リ我五千五百四十八萬八千九百四十四 | 九億八千六百六十二萬「フランク」 九リ我六千九百三十九萬五千六百六十四 |
| 普魯西銀行 | 七千五百萬「フランク」 九リ我三千三百五十萬 | 七億三千三百四十六萬「フランク」 九リ我三千三百四十六萬 |
| 魯西亞帝國銀行 | 九千二百萬「フランク」 九リ我六百六十萬 | 三十八億二千八百一十二萬六千「フランク」 九リ我六億八千八百八十四 |
| 澳地利國立銀行 | 二億二千五百萬「フランク」 九リ我四千五百萬 | 七億四千二百二十三萬三千「フランク」 九リ我二億三千三百六十萬九千九百四十四 |
| 伊西班亞銀行 | 九千一萬「フランク」 九リ我九百一十萬 | 六千三百五十七萬八千「フランク」 九リ我六百三十七萬八千 |
| 伊太利國立銀行 | 七千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九百九十九萬九千九百九十九 | 七億七千九百九十九萬八千「フランク」 九リ我七億七千九百九十九萬八千 |
| 和蘭銀行 | 二千三百九十二萬「フランク」 九リ我六百一十二萬 | 三億四千四百五十七萬六千「フランク」 九リ我三千四百五十七萬六千 |

設案按ルニ原文ノ計高
 比較高率ニ差誤アリ
 今表中各項掲載ノ
 高ヲ合計スルニ九億
 三千二百四十二萬八千九百
 九十九「フランク」ニ至リ
 之ノ原文ハ八百六十九年
 ノ高ニ比シテハ六億三千
 七百五十三萬五千ノ增加ニ
 シテ原文ハ八億八千九百
 九十九萬九千九百九十九
 萬四千五百ノ作入ハ原
 文同一増加高ヲ得ル

| 銀行ノ名称 | 株券發行高 | 金券發行高 |
|--|---|---|
| 佛郎銀行 | 二千二百二十萬「フランク」 九リ我三百二十萬 | 九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九百九十九萬九千九百九十九 |
| 普魯各別銀行三四所 | 千六百七十五萬「フランク」 九リ我三百三十七萬五千 | 五十三百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我五百三十九萬九千九百九十九 |
| 右歐洲各國三十六所ノ金券發行銀行ニ於テ發セシ金券 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| ヲ合計スルニ其高九十六億二千三百三十五萬「フランク」 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| ニ通用セルハ十九億八千三百八十一萬五千「フランク」 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| 我十大億七千七百六十萬「フランク」ノ高ニ比較スレハ六億四千三百十五萬 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| 三千五百萬「フランク」ハ九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」ノ增加セリ | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| 日月曼國ニ於テ金券通用高ノ大ニ増殖セシハ一般經濟 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| ノ道隆盛ニ至リシ嘉微ト謂フハシ何レノ國ヲ問ズ日月 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |
| 曼ノ如ク工業錢道銀行ノ事務昌盛ニ至ラハ總テ通貨 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 | 九億九千九百九十九萬九千九百九十九「フランク」 九リ我九億九千九百九十九萬九千九百九十九 |

増加スルハ當然ノ理ナリ二十年以來、銀行金券通用高
 ヲ觀テ其理最モ判然タリ「ワグ子」氏著述、日耳曼國金
 券發行銀行立法論中載スル所ノ通用金券高ヲ左ニ揭示
 ス

| 年 紀 | 通用金券高 | 抵當現金高 | 割 合 |
|---------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------|
| 千八百四十六年 | 六百一十萬馬克 <small>千四百四十萬馬克</small> | 百九十九萬馬克 <small>四百三十萬馬克</small> | 二割一分六厘 |
| 千八百五十一年 | 三千四百三十萬馬克 <small>千八百四十萬馬克</small> | 百八十八萬馬克 <small>四百三十萬馬克</small> | 六分五厘 |
| 千八百五十六年 | 八百七十七萬馬克 <small>千九百七十萬馬克</small> | 二百五十五萬馬克 <small>千九百七十萬馬克</small> | 三割八分二厘 |
| 千八百六十一年 | 一億七百零三萬馬克 <small>九百三十萬馬克</small> | 四百九十九萬馬克 <small>千九百三十萬馬克</small> | 三割七分一厘 |
| 千八百六十七年 | 二億零四百零三萬馬克 <small>九百三十萬馬克</small> | 九百八十一萬馬克 <small>千九百三十萬馬克</small> | 四割三分八厘 |
| 千八百六十八年 | 三億零四百零三萬馬克 <small>九百三十萬馬克</small> | 一億四百零三萬馬克 <small>千九百三十萬馬克</small> | 四割六分 |

右表ニ據テ改フルニ日耳曼國金券發行銀行ノ金券通用高ハ千
 八百五十一年ヨリ行ハ百六十六年ノ間、其高六倍セリ而シ

テ此ノ如ク遽ニ増加セシム全ク千八百五十四年ヨリ千八百
 五十七年迄ニアリ而シ其間千八百五十六年ニ、總テ金券類ノ
 相場太々ニ落シ又翌千八百五十七年ニハ物品賣買ノ上ニモ亦
 同実ヲ生シ其後千八百六十六年ニ至リ相場再ヒ下落セリ然レ
 氏唯日耳曼金券發行銀行ノモ能ク斯時ノ災ヲ免レタリ以テ其
 方法ノ宜シキヲ知ルベシ

然今ニ至リ銀行極メテ窮困ナリト虽モ金券及ヒ寄託金抵當
 現金ハ三分ノ一ヨリ減少ス可ラサルヲ經驗ムヨリ覺知セリ
 是ヲ以テ銀行ニ於テハ總テ其義務ニ對シテ平常法律上制定ノ
 抵當現金高ヨリ過多ノ現金高ヲ備ヘリ
 各國ノ金券通用高ヲ比較スルハ甚ダ難シ何トナレハ銀行金券
 ハ大小幾種ニ分スルヤ統計上確報ナキノミナラス其各種類
 行金額ノ概數モ亦明了ナラサレハナリ

又金券通用高ヲ人口ニ割付計笑討スルアリ然レ氏亦決ミテ各結果ヲ生スル無ク到底其目的ヲ達シ得可カラサルナリ世人キユレニシシユルト法律ヲ以テ金券発行高ニ制限スル者多シ其論甚タ理アリトス夫レ金券発行高ニ決ツナル定限ヲ立ルノ弊ハ金券上災厄ノ秋ニ遭遇シテ明ニ突頭ス其故ハ斯ル特銀行ハ一般ノ商估ヲ救ヘキナルニ法律上金券高ニ制限アルカ高メニ掣肘セラ却ラ之ヲ救フ一能ハサレハナリ而シテ英國銀行ニ於テハ此場合ニ際シ頗ル窘感シテ他ニ施スヘキ術ナク姑クシール氏ノ方法下言詳ト停止セルハ亦奇ト謂フヘシ余輩銀行金券発行高ニキ前速セシ第三法即チ金券発行高ニ制限ナク唯法律上ニ於テ發行金券ノ抵當ニ制規ヲ設ケル法ハ本篇所載ノ法中ニ於テ最良ニ善ニシテ之ヲ用フルニ至使ナリ此法ヲ用フルハ政府故ラニ銀行ニ關係セズ特ニ發行金券ノ或ル高ニ必ス抵當ヲ

備フキ一ニシテ可ナリ而シテ銀行ニ於テモ亦此事ハ金券事務ノ性質上自然ニ出テ為サ、ルヘカラサルヲ明知ナルハ故ニ古ニテ之ヲ遵行ス

口 金券抵當ノ事

何時ニテモ、金券ノ抵當ニ金券ヲ現金ニ交換シ得ルノ保證タル銀行ノ元金銀行株金又ハ金券ヲ發行シテ收入シタル正金ヲ云フナリ而其法ニテ

- 一 悉皆現金ノ抵當
- 二 速ニ現金ニ換ヘ難キモノ、抵當時ニ不動産及ヒ書入質ヲ指ス

三 銀行狀ノ抵當

右三法ノ内ニ於テ銀行狀ノ抵當ノミハ最モ論際共ニ相適合ナリ

第一 悉皆現金ノ抵當ハ毫モ當今銀行ノ体裁ニ適セザルハ
リ若シ銀行ニ於テ其庫中ニ蓄藏スル現金或ハ地金ノ外ニ金券
ヲ発行スルヲ得サル中ハ金券ハ全ク寄託金証券ト同物トナレ
リ然ルキハ加^ハ何等ノ為メニ銀行ハ若許ノ金ヲ費シ金券印刷
ニ從事スルヤ何ノ目的アリテ一般人民或ハ政府ノ金ヲ預ルヤ
其下^ニ毫モ解シ難シ

第二 法ハ金券発行銀行ノ原則即チ銀行「^{所有物}」
物ハ何時ニテモ交換シ容易ク現金ト為シ得可キ物タルノ主義
ニ背ケリ

第三 銀行状ノ抵當法内ニ在テ獨^ニ是ヲ以テ最モ適當ノ法ト
ス此法、現金ト所有物^{銀行所有ノ容易ク}現金ニ換ヘ能フ
價位アル物ヲ云フ^ト、高ヲ都合ヨリ配合スルニ在リ而シ
テ最モ容易ク現金ニ換ヘ能フ價位アル物ヲ得ル^ハ「^{エスコ}」

又此^ハ「^{エスコ}」ノ義務ニモテ就中「^{エスコ}」ノ事務ヲ最
モ^モ照^ルトス此義務、金券ヲ発行シ用フルハ最モ便利ニシテ且
ニ相當^{ナリ}是等ノ事務ニ於テハ金券ノ漸次ニ銀行ニ返還シ来
ル順序最モ正シクシテ其期ニ違ハス故ニ此ニツク^テ事務ヲ行フ
ニ世上金券需要ノ多寡ヲ觀察シテ以テ其発行ヲ適宜ニ節制ス
ルノ規矩トシ又稍^シ金券自^ラテ已レテ節制ナルヲ助クトナシ
リ故ニ「^{エスコ}」ノ為替及ヒ「^{エスコ}」ノ交付ハ金券ノ
抵當ニ最モ宜シトス因テ是等ヲ專一ノ金券抵當ニシ現金ヲ其
補助トス其現金^ヲ要スルハ金券ノ臨時ニ備フルナリ而シテ此
臨時交換ノ限規ハ法律或ハ其他ノ法ヲ以テ一定シ得ヘキモノ
ナラス故ニ之ニ備ヘシニハ唯銀行ノ「^{エスコ}」ヲ蓄フル其宜
キヲ得ルト銀行ノ事務ヲ執ルノ際ニ經驗慣熟ヨリ聊カ照得ス
ル所ノ豫算トシテ今茲ニ論スヘキハ各國銀行ノ

抵當法内ニ於テ孰レカ最ニ理ニ近キヤニアリ各法律上ハ金券抵當法ヲ左ノ三ニ分テリ

一 英澳ノ法。名ハ千八百四十五年ニシールル、カベシト、ピール氏之ヲ英ニ施行シ又澳ニテハ千八百六十二年午二月廿七日ノ法ヲ以テ之ヲ施行セリ此法ニ於テハ制定ノ高ヲ超過セル金券ハ現金ノ抵當ヲ備ハサレハ之ヲ発行スルヲ得ス此制定高英國銀行ニ於テハ千四百四十七万六千磅ト定メ之ヲ超過セシハハ必ス其抵當ヲ現金ニテ備フヘキトス澳國ニ於テハ千八百六十二年ニ此高ヲ澳國通貨ニ億万、グレンニ定メタリ

二 北亞ノ法。右ハ聯邦侯議ノ法ニシテ千八百六十三年ヨリ翌千八百六十四年ノ間ニ制定シ之ヲ合衆國ニ施行セリ此法ニテハ政府ニ該國ノ國債証各ヲ抵當質トセリ其

3

弊害 論セハ因債証各ハ現金ノ同一ナラサルノミナラズ此他常ニ公券文換ニ支障ナキ能ハサル一ノ理由アリ

其故、既ニ株金ヲ以テ國債証各ヲ買収シテ之ヲ抵當質トシ更ニ又平常交換ニ充ツルニ定ル銀行状ノ抵當ヲ備ヘキルヘカラサルヲ以テ銀行ノ力ニ堪ヘ難ケレハナリ

三 日耳曼大陸ノ法。金券ノ或ル高ニノミ抵當ヲ備フル銀行ハ總テ此法ニ屬ス右ハピール氏ノ苛嚴ナル管理法ニモ從ハス抵當質ノ法ニモ從ハス其法不羈自立ニシテ金券三分一ノ抵當ヲ備フヘキ法ナルモ必ス嚴密ニ之ヲ遵行スルヲ要セス政府既ニ預諾セハ之ヲ四分一ニ減スルモ妨ナシト、ベルジリ銀行ノ如キ是レナリ此法ノ善良ナル徵証ニハ今日ニ至ルマテ日耳曼ノ金券發行銀行ハ能ク其業ヲ保續シ千八百六十六年〔即チ澳日大戦〕

ニ當ル日耳曼各金券発行銀行大渡訖之際シ毫モ不
ス以テ其法ノ堅牢不拔ナルヲ觀ルヘキナリ然ルニ他法
ヲ遵行セシ金券発行銀行ハ斯クアラサリシカ如シ
「ワグネル」氏云ク政府ニ於テ実績上ノ銀行法ヲ起スヘシトノ論
ヲ主張セハ金券抵當法ハ大陸様ノ法ニ基ツカサルヘカラス此
法ニ金券発行銀行ノ種類大小ニ別ナク政府ヨリ特別ニ金券發
行ノ權ヲ委任サレタル獨占或ハ中心銀行ニモ亦最モ便利ニシ
何レノ金券発行銀行法ニモ是レ此法ノ便宜ナルト謂フヘシ
故ニ實質上ノ銀行メ起サハ此法ヲ第一等トス
日耳曼大陸ノ法ニ切要ナル四項アリ

一 金券ノ發行高

二 現金ノ抵當

三 銀行ノ監督

四 株ニ高及ニ使用方

第一項ニ前既ニ之ヲ詳論セリ故ニ今贅セス
現金抵當ニ付テノ論ハ現金ノ性質及ヒ其高ニ関ス
現金ノ何物タルヤハ辨論ヲ費スヲ煩タサレバ若シ銀行規程中
ニ於テ定見ヲ示サレハ則チ法律上ノ通貨トス法律上ノ通貨ハ
多クハ金貨ナルヲ以テ銀行ノ現金モ亦總テ金貨トス然ル中ハ
銀貨ノ如ク通貨ノ紙幣ニ定マレル國ハ何ヲ現金トシ銀行ニ備
フヘキカノ疑起ルヘラモ澳魯北亞ノ如ク政府ノ紙幣ヲ發スル
國或ハ英ノ如キ交換金券ノ行ハルヘキ國ニ於テハ紙幣ヲ以テ現
金トシ抵當ニ備ヘ可ナルト疑ヲ容レス繼ヒ英北亞ノ銀行ニテ
交換ヲ休止スルニ以テ現金ニ備フルト妨ナシ
現金高ノ一前件ヨリ一層法律ヲ嚴ニメ定ムルヲ切要トス金
券發行高ノ幾分ハ現金抵當ヲ備フヲ以テ當然トセハ其

發行高ハ現金抵當高ノ幾分ト極スヘキ理ナリ日耳曼銀行其他
歐洲ノ各銀行ニ於テハ抵當現金高ヲ三分ノ一ト定ム其此度ヲ
過キ減少スヘカラサル所以ハ蓋シ經濟上ニ於テ現金若干國
内ニ存留セシムルノ便ニ取リ且ツ之レヨリ小ナレハ必ス交換
ニ不使ヲ生スルヲ以テトテ其他ノ抵當ハ「スコント」濟ミ為替
券或ハ証券或ハ「ロニバルト」等ナリ不動産ノ抵當ハ大抵之ヲ用
スルヲ得ス其故ハ「クレジット」与「フル」ノ期限長キ故ニ金ヲ之
ニ向フルハ便宜ナラス金券ノ抵當ニハ「スコント」濟ミ為替券
ヲ最良トシ証券ハ稍ニ劣レリトス然レモ多ク一般ニ之ヲ用フ
普魯西國私立銀行ノ嚴法ト雖モ其抵當三分ノ内一分ハ現金ハ
カハ為替券餘ハ銀行規程ニ其種類ヲ確定セシ時價ノ大抵昂ナ
キ極ニテ正寶ナルハ國証券ト定ムモ銀行規程ニ確定セリ為替
「スコント」ニ「バ」ト「」其他銀行ノ「アクテーフ」ハ「ハッシー」ノ「

ニ付テハ後詳論ト今銀行株券ノ高及ヒ使用ノ方ヲ論セハ
第一ニ金券發行ノ行ノ株金ハ尋常カ保証元金ナルカ將々營業
ノ元金ナルカノ事ナリ
銀行ノ本色ハ「クレヂット」ヲ他人ニ与エルノミナラス其媒外ナリ
リテ甲ニ「クレヂット」ヲ与ヘンカ為メニ乙ヨリ「クレヂット」ヲ借ル
モノセレバ銀行ノ景況及ヒ經濟上ノ活機ハ右ノ「アクテーフ」
ハ「ハッシー」常ニ相連接セルヲ以テ株金ノ性質ハ多ク保證元金
ノ業ヲ有セリ昔時「ロニバルト」ノ事務ハ特ニ「バ」タルノ元金ニ
テ取扱ヒシカル后銀行ノ「ハッシー」ノ事務盛ナルニ隨ヒ金券
及ヒ寄託金ヲ營業ノ元金ニ使用セシヨリ漸次ニ株金ニ營業用
ノ關係減少シタリ
株金ノ高ハ營業用ノ金高ニ比シ甚々少クシテ可ナル徵証トシ
テ倫敦株券銀行ノ狀ヲ左ニ表奉ス

千八百六十九年ノ末ニ

| 銀行ノ名称 | 擔保金及準備金高 | 寄託金高 | 寄託金株金例 |
|------------|----------|----------|--------------|
| 倫敦及ヒウストン銀行 | 三百萬磅 | 千四百萬磅 | 千八百六十九年分配高割合 |
| 倫敦株券銀行 | 百五十萬磅 | 一千九百萬磅 | 一割七分 |
| 倫敦及ヒ各州銀行 | 百五十萬磅 | 千九百萬磅 | 一割五分五厘 |
| 倫敦及ヒ各州銀行 | 百五十萬磅 | 千九百萬磅 | 一割七分 |
| 倫敦及ヒ各州銀行 | 百五十萬磅 | 千九百萬磅 | 一割五分 |
| 倫敦及ヒ各州銀行 | 百五十萬磅 | 千九百萬磅 | 七分 |
| 合計 | 六百五十萬磅 | 六千七百七十萬磅 | 三分乃至五分 |

英國銀行ノバツシトナレ事務ノ主意ハ明瞭ナレハ辨明ヲ待タス
 寄託事務盛ナルニ隨ヒ英國銀行ハ巨額ノ株金ヲ備ヘスモテ
 クチラレ事務ヲ行ヒ得ルニ至リ其株金甚タ貴要ナラザリ又
 下流地利ニシテハ會社ノ如キハ僅ニ七百萬ノグルデニシテ株

金ヲ以テニ
 クルデニシテノ寄託金ヲ預リ而シテキト者ニ

金庫証券ヲ与ヘタリ
 又貯蓄金庫株金ヲ巨額ナルハ甚タ無益ニ屬ス故ニ間ニ株金ヲ
 置スシテ貯蓄金庫ヲ創立シ漸次ニ其利益ヲ積テ以テ株金或ハ
 準備金トシテ者アリ是ニ由テ例推セハ銀行モ亦全ク株金ヲ置ス
 或ハ殆ト置カサルカ如クニシテ創立シ唯其主タル者ニ於テ法
 律上ノ責任ヲ負擔シ或ハ其事柄ニヨリ拂ヲナス人ノ記名
 ヲ設置セルノミニテ其支分ナルヲ似タリ
 是ニ一ノ最モ必要ナル一タリ銀行ハ金券發行ノ許可ヲ蒙リシ
 為メ政府ニ對シ報酬ヲナスヘキ義務ヲ負擔ス此義務ハ銀行ヨ
 リ全ク納税ヲナサハルル或ハ政府ヨリ特別ノ概理ヲ得シ中ニ
 限レリ歐洲各國ノ中心銀行ニ於テハ特別ノ権理ヲ得シ報酬ト
 シテ政府ニ幾分カノ義務ヲ致スノ方有利子或ハ無利子ノ金

直ニ貸与ニ而シテ特別ノ権理ヲ保有スル間ハ其清選ヲ志スル
 ハ之ヲ求ムルモ政府ニ便利ナル方法ヲ以テスルキ等ノ定規ヲ
 又其國ニヨリ政府銀行ニ約シテ其絶益ノ一分ヲ收入スルヲ
 英仙澳ノ銀行即 渡 其他ノ銀行ハ多クハ金ヲ貸与シ普魯西
 耳義ノ国立銀行及ヒ「ラルテン」ハルク「バ」バ「デ」ノ銀行ハ純益
 ノ一分ヲ收入セシムル及ヒ「アラリク」ホルト「ノ」銀行ハ相庭會社ニ
 於テ時價ヲ有セシ債券ヲ貸与金ノ証トシテ政府ヨリ預レリ然
 レ氏澳國政府英國政府ハ之ヲナサス前二法ヲ較論セハ政府ニ
 於テ銀行ノ純益一分ヲ收入スルヲ理メ當然トス近年ニ「普」
 西政府ハ仍ホ此法ニ從ヘ今普國銀行ノ純益高ヲ左ニ表示ス
 千八百六十六年 百九十八万二千「タ」レル
 千八百六十七年 百四十一万二千「タ」レル
 千八百六十八年 百三十八万八千「タ」レル
 九〇我百三十万
 七千四百円
 九〇我九十八万八
 千四百円
 九〇我九十七万千
 六百円

千八百六十六年 百六十四万四千「タ」レル
 千八百六十七年 百六十四万四千「タ」レル
 千八百六十八年 百六十四万四千「タ」レル
 九〇我七十七万
 千六百円

| 名称 | 金券通用高 | 金券通用高ト為 及ヒ政府金庫證券 高ト割合 | 金券通用高ト為 換ノ高ト割合 | 金券通用高ト為 シバレト割合 | 平均 |
|-----------|--------------------|-----------------------------|-------------------|-------------------|----------|
| 一 普國銀行 | 德幣千二百五十 萬千「タ」レル | 百分ノ五十六 | 百分ノ四十五・一〇 | 百分ノ二一・八〇 | 百分ノ二四・二〇 |
| 二 普私立銀行 | 千六百六十 萬千「タ」レル | 百分ノ八八・五〇 | 百分ノ二二・六〇 | 百分ノ三三・四〇 | 百分ノ三三・四六 |
| 三 港市六所ノ銀行 | 千六百六十 萬千「タ」レル | 百分ノ五七・四〇 | 百分ノ二二・二〇 | 百分ノ八二・五〇 | 百分ノ三六・〇八 |
| 四 其餘耳曼銀行等 | 千六百七十 萬千「タ」レル | 百分ノ四三・一四 | 百分ノ七五・三 | 百分ノ二一・九〇 | 百分ノ二四 |

普魯西私立銀行ハ掲表中ニ於テ抵當ノ割合最確定ニシテ現金
 及ヒ金庫証券ヲ合テハ割八分五厘ニ至レリ今又左表ヲ以テ示
 出ス

第一季ニ日耳曼帝國金券發行銀行及ヒ「ジ」銀行ノ内大銀行三
 十一所ニ於テ發出セシ金券通用高及ヒ其抵當ノ割合ヲ左ニ表
 示ス

八百七十年ノ末ニ歐洲各國ニ通用セシ銀行金券ノ高ヲ掲示ス

仙朗西 六億「ターレル」

九ソ我四億
二千我四億

英吉利 二億六千九百万「ターレル」

九ソ我一億
千五百五我四億

日丹曼 二億二千九百万「ターレル」

九ソ我一億四千八百
六十七我三億四千八百

伊太利 二億「ターレル」

九ソ我一億
四千我四億

澳地利 一億九千万「ターレル」

九ソ我一億三千
三百七我四億

和蘭陀 五千九百万「ターレル」

九ソ我四千
百三我四億

自山義 四千万「ターレル」

八百我二千
八百我四億

西班牙 二千万「ターレル」

九ソ我二
千四百我四億

瑞匈及ヒ 一千万「ターレル」

九ソ我四千
百七我四億

魯亞西 千七百五十万「ターレル」

九ソ我二千二百
二十我四億

典林 千五百万「ターレル」

九ソ我千
五十我四億

瑞西 九百三十万「ターレル」

九ソ我三百
七十一我四億

葡萄牙 三百方「ターレル」

九ソ我二
百十我四億

希臘 九十万「ターレル」

九ソ我六
千三我四億

「ルクセンブルグ」 七十一万

九ソ我四十
九我四億

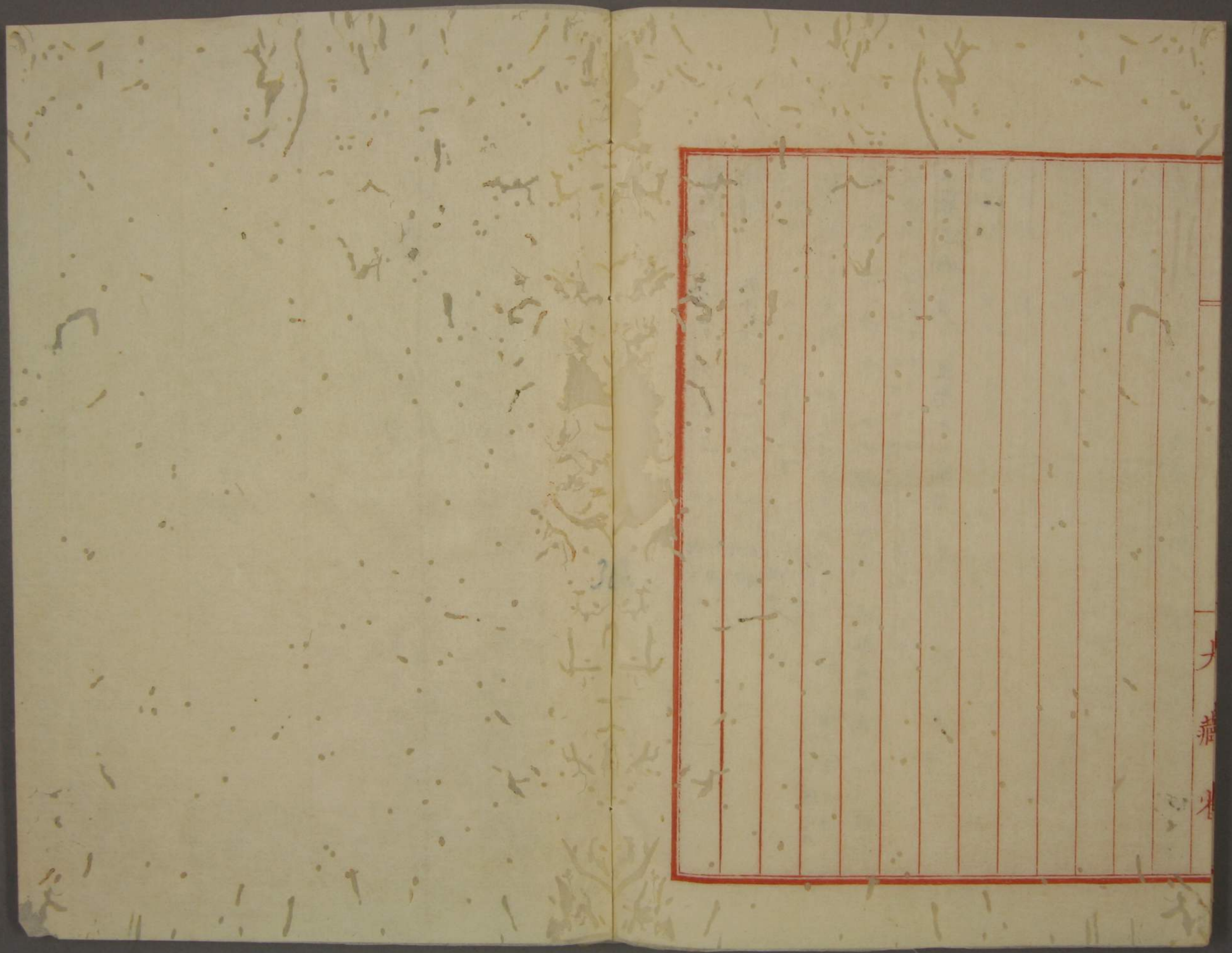
亞米利加合衆國 四億四千九百万「ターレル」

九ソ我三億四千
百三我四億

千八百七十年ノ末ニハ地球上各國ノ金券通用高二十二億九千

三百五十万九ソ我十六億「ターレル」ナリ

金券支務ニ付テ重要ナル論辨ハ是ニ至テ結了セリ



九
第
一

